

様式 C - 19

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 12 月 13 日現在

機関番号：32665
研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2008～2011
課題番号：20360277
研究課題名（和文） 都市形成における地域継承空間システムと近代化空間システムの関係についての研究
研究課題名（英文） Study on the Relation between the Traditional Spatial systems and their Succession in Regions and the Modern European Spatial systems in the Modern Cities and Towns
研究代表者
宇杉 和夫（USUGI KAZUO）
日本大学・理工学部・准教授
研究者番号：80096776

研究成果の概要（和文）：

「近代化空間システム」と「地域継承空間システム」はこれまで個別的な研究対象であった。本研究は「都市形成」という枠の中でこの2つの研究対象を関連的「関係」として位置づけ、調査・検討した。その経過は日本建築学会の特別研究等の議論・検討から始まった。本研究は空間システムの内容の研究というよりは、この「2つの空間システムの関係についての視点」についての研究であるといえる。また、新たな地域の持続的な環境形成、地域再生に向けて、本視点による計画論に価値があることを広報し、共有化を図ることが課題として最重視されている。この後者の面で、本研究は現在の要請に対応した成果が得られ、評価できるものと考えられる。

研究成果の概要（英文）：

‘Modern system of space-making’ and ‘succeeded traditional local area-shaping system’ were recognized as individual study fields each other. In this research program, we tried to study these two themes as related mutually. The beginning was in the special research programs of the Japan Institute of architecture, etc. This program is a study on the viewpoint of the relation between the two space-shaping systems instead of the contents of space-systems. The design system on this viewpoint will be valuable for sustainable environmental developments and areal regenerations. We attach greater importance to appeal and share to develop a design system on the viewpoint. We suppose that the results of this research program will be valuable to meet the needs of today on the latter aspect.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	3,000,000	900,000	3,900,000
2009年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
2010年度	4,600,000	1,380,000	5,980,000
2011年度	1,400,000	420,000	1,820,000
年度			
総計	12,900,000	3,870,000	16,770,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学・都市計画・建築計画

キーワード：空間システム、地域継承、近代化、都市形成、地域固有、計画史、災害復興

1. 研究開始当初の背景

日本建築学会都市計画委員会都市形成・計画史小委員会(主査:宇杉和夫)は「都市形成・計画史公開研究会」を連続してきた。その内容は制度史・都市計画史・都市事業史から空間システム形成史・空間文脈形成へと展開してきた。そこで、建築学計画系(都市計画・建築計画・農村計画・都市建築史)の共同テーマとしての探求の必要性が明確になり、同学会に都市形成・計画史小委員会企画の「近代の空間システム・日本の空間システム特別研究」委員会(鳴海邦碩委員長, 宇杉和夫副委員長)が設立された。本研究はこの継承である。

都市形成・計画史公開研究会
第8回「東京と郊外原風景—原風景と都市形成／都市計画の原風景」2003年

第11回「日本の郊外 その原型と変容」2004年

第13回「郊外居住地の系譜と再編—都市化の中の工業と住宅」2005年

第14回「大阪の都市空間の原型と郊外」2005年

第15回「長崎：日本の空間景観システムと世界のシステム」2005年

第16回「日本のニュータウン計画の形成と再生」2006年

第17回「江戸空間・東京空間・江戸東京空間システム」2006年

第18回「居住地のアイデアの形成／居住地の計画・形成の原形」2006年

第19回「開港都市の原風景と近代の空間システム」2007年

特別研究「フォーラム：大阪の空間システムを考える」2007年

近代の空間システム・日本の空間システム特別研究の経過の中で、改めて関連地域について、地域継承空間システムと近代化空間システムについての調査が必要となった。

2. 研究の目的

(1)日本建築学会「近代の空間システム・日本(地域)の空間システム特別研究」を調査等によって発展させ、なを、その課題を日本の空間計画形成に組み入れる方策を検討する。

(2)近代の都市形成を「地域継承空間システム」と「近代化空間システム」の関係からその評価(解釈, 省察と批評)を試みる。評価をする方法と視座を検討する。

(3)都市形成における「地域継承空間システムと近代化空間システム」の関係における問題と課題を、地域空間形成計画と扱う計画枠組みとその担い手形成について検討する。

(4)現在求められている持続的な環境形成や、固有で多様な地域環境の形成に寄与できるものとする。

(5)日本の近代の都市形成史・地域計画史の中に位置づけ、新たな21世紀の方法を導く。

(6)本研究のテーマは広域で多様な問題に結

びついているが、一方でまだ扱われていない新たな創造的な課題を含んでいる。従って、この(1)~(5)の中では今回の研究テーマとしては(2)を重視することになる。

3. 研究の方法

本研究は基本的に日本建築学会の研究委員会との関係、調査等によるその支援・普及を目的として設定された。

(1)都市形成・計画史小委員会(歴代主査:石丸紀興・安田孝・宇杉和夫):初期は「都市形成・計画史公開研究会」の議論から拡大したテーマである。特別研究の成果を踏まえ、その内容を限定し「地域文脈形成・計画史小委員会(主査:木多道宏)」と改組して研究を継続中である。

(2)特別研究委員会Ⅰ:「近代の空間システム・日本の空間システム特別研究」において、現地調査も踏まえ「地域継承空間システム」と「近代化空間システム」の関係の都市計画・地域計画状の課題を明らかにし、広報し、空間計画系の研究者の共有化を図る。

(3)特別研究委員会Ⅱ:本研究と特別研究Ⅰにおいて得られた指標と課題について、それを更に社会化するための方策について検討する、公的な組織を設定し、本研究の調査成果をもとにその展開に寄与する。その具体的な組織として「サステイナブルエリアデザインとコミュニティアーキテクト特別研究」を設立し、その地域化に寄与する。

(4)総合論文誌第10号:本研究は個別的な課題としての研究ではなく、建築学における都市計画・建築計画・農村計画・都市建築史を基幹とする空間計画系の形成とあり方に関する根本的な課題を含んでいる。それを「地域継承空間システム」と「場所性」の概念を基準にし、建築学の形成経過と今後の方向を議論・検討するプラットフォームの構築が重要と考えた。総合論文誌第10号「場所性・地域継承空間システムと都市建築のフロンティア」(チーフエディター:宇杉, サブエディター:中島直人・木多道宏)の刊行と、建築学会大会による同テーマのパネルディスカッションによって、この課題を遂行する。

また研究の目的(2)の「地域」を設定した。

(1)日本の地域:

①東京・大阪を対象とした研究

②郊外を対象とした研究

③地方都市を対象とした研究

④漁村農村・自然地域を対象とした研究

(2)アジア地域:

①16世紀以来のヨーロッパの植民地進出と、アジアの地域継承空間システムとの関係

②ヨーロッパに古代・中世から伝わる空間のアイデアと、都市計画を中心とする近代の空間システムとの関係と意味

③アジアの近代化における地域継承空間システムと近代化空間システムの関係と課題

④アジアの総合的な近代化と地球環境の持続継承の問題

⑤中国においては西安グループ(西安交通大学等)と都市形成の共同研究を実施する。

(3)ヨーロッパ地域:

①共産主義国家の転換やEU形成に伴う、現在の空間計画の展開と課題

②日本とアジア地域に影響を与えてきた経過についての批評・省察

③ヨーロッパの近代の空間のアイデアや空間計画の方法の形成について

④古代から形成・持続継承されてきた空間のアイデアと空間形式等について

(4)アメリカ地域:

①アメリカへの移入文化と地域継承空間システム

②ヨーロッパの殖民文化の形成

③近代空間計画システムの移入と形成

④コミュニティ問題とコミュニティ持続形成施策の展開

(5)東日本大震災復興地域:

①東日本地域の地域文脈・計画文脈

②地域コミュニティ持続継承という課題についての対応

③東北地域の原風景、体験持続空間の継承再生という課題

④東日本大震災復興における地域主権の計画体制・計画制度・担い手についての課題

4. 研究成果

(1)建築学会の研究委員会等の支援と共同テーマの広報と共有化の拡大・普及について

日本建築学会の「都市形成・計画史公開研究会」と「近代の空間システム・日本の空間システム特別研究」との関連研究としての出発したものであるが、その発展として「サスティナブルエリアデザインとコミュニティアーキテクト特別研究委員会」と「地域文脈形成・計画史小委員会」の設立と発展に寄与している。ともに、公開の研究会・シンポジウムを多く重ねており、その広報効果は大きいのは建築学内外が認めている。これらは全て、論文資料集を作成(学会有償頒布)の上で実施されており、その資料的価値は今後も将来にわたってテキストとして同テーマの展開に寄与していくものと考えられる。また、最終年度には建築学会の総合論文誌10号「場所性・地域継承空間システムと都市建築のフロンティア」の企画、編集発刊に至り、その目標は大きく達せられたと評価できる。また本年9月には建築学会大会において、同著書をテキストとして同テーマのパネルディスカッションが開催され、盛会の内にその成果が広報・共有化された。

(2)研究成果の出版刊行広報について(「主な発表論文等」参照)

本研究の企画にあたっては、建築学会委員会成果の他に、『日本の空間認識と景観構成』

(宇杉和夫著)他の著書公刊が基盤にあるとして企画されている。「近代の空間システム・日本の空間システム特別研究」は計画系の総合研究であるが、推進者宇杉は同テーマを本研究の下に『場所の空間学』として出版した。また同特別研究の成果の一部は都市住宅学会のワークショップに展開され、その成果は『まち路地再生のデザイン』(共著)として刊行することができた。なを『場所の空間学』『まち路地再生のデザイン』は2010年・2011年の都市住宅学会賞著作賞を受賞している。また、本研究の最終テーマとして『場所性・地域継承空間システムと都市建築のフロンティア』は日本建築学会により総合論文誌第10号として刊行された。さらに、本研究の展開として重視した「サスティナブルエリアデザインとコミュニティアーキテクト特別研究」は本研究の応用部門にあたる研究であるが、そこでの公開のシンポジウムの経過は『地域主権のデザインとコミュニティアーキテクト』に報告されている。同書は本特別研究の成果を現在のところ代表している。

(3)研究内容と成果の発表・公表・公共化

本研究は空間システム研究であるが、個別の狭まった内容を深める研究というよりは、その意義を広め、更にその社会における計画的展開の方法についての指標を広報することに価値があった。現在という状況にそれが求められているという認識がその基礎にある。いわば空間システムの内包的課題以上に外延的課題が重視されている。この意味で萌芽的研究である。これは学術論文としての公表以上に公開報告会等における情報の公的拡大に価値をもつ。また空間システムについての研究は1970年前後から日本の関連学術にそのスタートが認められる研究であるが、必ずしもその内容が以後、深まっているとはいえない。それは欧米に始まるシステム論・空間パターン論の輸入から始まり、一部集落解析に成果があっても、日本に継承された空間システム・景観システムの内容に学術的展開と合意・共有化ができていない。更に日本と地域に継承された空間システムとその後移住された近代化空間システムとの関係、そしてその評価という総合的で最も必要とされる課題については殆ど触れられないまま現在に至っている。ここに日本の持続的な環境形成ができない最も大きな原因がある。本研究はこの空間システムの内包的萌芽的課題については、表題として強く広報している。

(4)地域別調査の成果と課題、および各地域に対する対応

本研究では1970年代の空間システム研究・地域研究とは異なる枠組みの必要性から出発している。それは純粋に空間システム自体の研究だけでなく、その課題を社会化する方法についても並行して実現化をはかるこ

とを目標としている。本研究では国外の空間システムへの調査が国内の調査と対応する目的をもっている。近代化空間システムの理解には欧米の空間システムの形成についての理解が根本にある。日本の地域継承空間システムはアジアの広域の地域空間文脈の中に基本的に位置づけられる。しかしその間には共通のアイデアやパターンもあり、それが近代以後の双方の空間システムの関連的形成に関係している。単なる制度的に欧米パターンが輸入されたとは判断しきれない。同様に近代化空間システムも古代中世の欧米のシステムから単純に形成されたものではなく植民地アジアやアフリカの空間に影響されたものも多い。この基本的な分脈については『地域主権のデザインとコミュニティーアーキテクト』に概述して広報することができた。また、「地域継承空間システム」については「地域固有の空間資産(遺産)」という概念に変えて、埼玉県地域および全国地域について意識調査等をもとに、その評価について確認することができた。

(5) 海外学術団体との協議・課題の共有化

本特別研究は日本の生活空間の近代化とあわせて、アジア地域の生活空間の近代化と地球環境の持続的継承の関係の問題を1つの視座にしている。アジア地域の近代化の中で、中国地域の位置は現在主要な位置を占めている。また東南アジアの半島と島嶼部およびその関係は、日本と韓国・朝鮮半島も含めて、東・東南アジア+太平洋地域の骨格となる自然環境の形式である。本研究はこれらの視座に立つ萌芽的な研究であるが、中国地域については西安グループ(西安交通大学等)と共同研究を推進することができた。また、ヨーロッパ・アメリカ地域については個々の調査の中での協力関係を深めてきた。本研究は海外学術団体と協議・共有化する課題を明確にするための基礎調査の段階にあり、今後の展開が課題とされている。

(6) 東日本の国土復旧復興の課題に対して

特別研究終盤に東日本大震災国土復旧復興という大問題に遭遇した。日本の国土計画・都市計画においては近代化・計画化と自然災害及び戦災の復興との関係は極めて重要な課題である。しかしこれまでの復興計画において「地域継承空間システム」「地域固有の空間資産」「地域空間文脈」が計画的に認識されてきていない側面がある。これには、①復興計画と「地域継承空間システム」活用を同時に進める、という視座の他に、②「防災災害復興という地域空間システム」の継承、というより根本的な視座がある。本研究では関連研究「サステナブルエリアデザインとコミュニティーアーキテクト特別研究」「場所性・地域継承空間システムと都市建築のフロンティア」「地域文脈形成・計画史研究」も

含めて議論と調査・提案を付加してきているが、その概要と具体的な提案の骨子は『地域主権のデザインとコミュニティーアーキテクト SADとCA』に一部報告している。

(7) 日本の現在と将来の空間計画に対する提案：東日本 SAD・CA 計画への計画展開

現在、「東北の原風景再生」「地域コミュニティ持続再生」を目指した展開を進めている。都市住宅学会に本年度設立した東日本復興支援「地域コミュニティ計画研究小委員会」等ではコミュニティーアーキテクト等による地域復興支援の方法と枠組みを検討する。

5. 主な発表論文等(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌等論文〕(計 25 件)

- ① 宇杉和夫，“総合論文誌第 10 号の刊行にあたって(地域継承の空間システムと都市建築のフロンティア)” 場所性・地域継承空間システムと都市建築のフロンティア，日本建築学会総合論文第 10 号，p. 1，2012 年，査読無
- ② 宇杉和夫，“場所の発生：渦の空間・反復的空間と直交の空間—地峡・海峡・水路と極と龍のいる場所—” 場所性・地域継承空間システムと都市建築のフロンティア，日本建築学会総合論文第 10 号，pp11-14，2012 年，査読無
- ③ 木多道宏・篠沢健太，“ニュータウン開発における場所性・地域継承空間システムのとらえ方—千里ニュータウンの空間構成と内在する自然環境構造継承の課題—” ティピカルプラクティス，場所性・地域継承空間システムと都市建築のフロンティア，日本建築学会総合論文第 10 号，pp. 47-50，2012 年，査読無
- ④ 中島直人・神吉紀世子，“遺産と文脈の創造的前進—まちなみの新しさと古さを巡る問題—”，ティピカルプラクティス，場所性・地域継承空間システムと都市建築のフロンティア，日本建築学会総合論文第 10 号，pp. 51-54，2012 年，査読無
- ⑤ 中島直人，“『都市計画』と『都市』との縁—石川栄耀に見る都市計画家像—”，都市計画 297，pp. 14-17，2012，査読無
- ⑥ 中島直人，“釜石中心地区の復興計画と市街地形成の履歴”，都市計画 296，pp. 22-23，2012，査読無
- ⑦ 中島直人，“富士講の記憶を新たなまちづくりと観光の力に”，別冊BIOCITY 富士山，世界遺産へ，pp. 82-89，2012，査読無
- ⑧ 石丸紀興，“広島戦後復興における計画思想としての平和記念都市の提案・形成・成立過程に関する研究”，広島平和記念資料館資料調査研究会研究報告第 8 号 pp.1-42，2012 年，査読無
- ⑨ 石丸紀興，“都市計画史家は被爆都市をどう記述したか—復興の理念と実際，引き

- 継がれた課題”，建築雑誌，2012年8号，pp.20-21，2012，査読無
- ⑩ 石丸紀興，“過去の復興研究とダム生活再建地づくりの体験から東日本大震災復旧・復興における新たな政策展開に向けて—福島第一原発災害による中・遠距離避難者の生活再建問題を問う”，農村計画学会誌 30 卷 4 号，pp.567-572，2012 年，査読無
- ⑪ 下田元毅，木多道宏，吉川正展，“宮城県女川町における漁村集落群の再形成に関する研究 その1—集落の被災状況と空間構成の分析—”，シンポジウム「東日本大震災からの教訓，これからの新しい国づくり」，日本建築学会，pp. 567-570，2012 査読無
- ⑫ 吉川正展，木多道宏，下田元毅，“宮城県女川町における漁村集落群の再形成に関する研究 その2—女川湾における漁場管理のしくみについて—”，シンポジウム「東日本大震災からの教訓，これからの新しい国づくり」，日本建築学会，pp. 571-574，2012，査読無
- ⑬ 石丸紀興，“ヒロシマの復興の軌跡”，水の文化第 38 号「記憶の重合」，pp.36-43，2011 年，査読無
- ⑭ 宇杉和夫，“東北の原風景と地域コミュニティの持続再生—東日本 S A D 計画支援”，地理 676，pp. 86-93，2011 年，査読無
- ⑮ 宇杉和夫，“江戸水路の原風景”，地理 673，pp. 28-39，2011 年，査読無
- ⑯ 宇杉和夫，“東北の原風景と地域コミュニティの持続再生—地域主権のまちづくりと東日本最震災大津波被災復興支援（後編）”，地理 673，pp. 84-89，2011 年，査読無
- ⑰ 宇杉和夫，“東北の原風景と地域コミュニティの持続再生—地域主権のまちづくりと東日本大震災大津波被災復興支援”，地理 672，pp. 73-79，2011 年，査読無
- ⑱ 宇杉和夫，“「個室とコモンスペース：相隣コモンスペースとの関係へ」”，住まいと電化，vol.22,pp.11-16，2010 年，査読無
- ⑲ 宇杉和夫，“「サスティナブルエリアデザイン（SAD）と担い手 コミュニティアーキテクト（CA）制度の推進について」”，Re 建築/保全，NO.165，pp.63-67，2010 年，査読無
- ⑳ 宇杉和夫，“日本の普通のマチ空間システムの継承と再生：オモテとウラの空間と地形”都市計画 277，2009 年，pp.60-63，査読無，
宇杉和夫，“「山と海の空間軸とウラの空間自然景観の中の神社と景観形成」”，ビオシティ，no.40，pp.78-81，2008 年，査読無
- ① 石丸紀興，“東日本大震災に伴う福島第一原発災害による中・遠距離避難者に対する政策的展開の考察—震災復旧・復興と併せた生都市計画研究活再建政策への試行的・先駆的政策の諸提案—”，日本都市計画学会中国四国支部都市計画研究講演集 10pp. 25-28，2012 年，査読無
- ② 木多道宏：“プラハの都市形成における地域文脈の継承に関する研究—歴史的市街地における街区内空隙の「開放性」の類型と変容特性について—”，日本建築学会計画系論文報告集，第 679 号，pp. 2063-2072，2012 年
- ③ 石丸紀興，広島戦災復興計画時における復興顧問 S. A. ジャビーの計画思想とその果たした役割に関する研究（日本都市計画学会都市計画論文集 Vol. 46No. 3，2011 年 10 月）
- ④ 石丸紀興，広島戦災復興計画時における復興顧問ジョン・D・モンゴメリーの計画思想とその果たした役割に関する研究（日本都市計画学会都市計画論文集 Vol. 44No. 3，pp. 829-834，2009 年 10 月）
- ⑤ 宇杉和夫，関于“《近代及日本的空間系統》意義的研究”，建築と文化，2008 国際学術討論会論文集，132-135，2008 年 [学会発表]（計 8 件）
- ① 宇杉和夫/千島孝弘，“月島の街区形成における路地と隙間の空間分布類型について”，日本建築学会，2010 年 9 月 11 日，富山大学
- ② 宇杉和夫/津野俊介，“プノンペン都市近代化におけるラウンドアバウトの特性についての研究”，日本建築学会，2010 年 9 月 11 日，富山大学
- ③ 宇杉和夫/大杉亮，“韓国晋州の郷校と地域景観認識について—陰陽・風水認識と関連して—”，日本建築学会，2010 年 9 月 10 日，富山大学
- ④ 宇杉和夫/北野幸樹/猿渡俊，“コミュニティアーキテクトについての問題提示とタイプ分類に関する研究”，日本建築学会，2010 年 9 月 9 日，富山大学
- ⑤ 宇杉和夫/丸史明，“中国西安交通大学の集合住宅と空間システムの保存に関する研究”，日本建築学会，2010 年 9 月 9 日，富山大学
- ⑥ 猿渡俊/宇杉和夫，“江戸切絵図の道空間分析に関する研究”，日本建築学会，2009 年 8 月 29 日，東北学院大学
- ⑦ 宇杉和夫「アンコール(王城)地域の山(プノン)と水(湖・川)崇拝と水運・方位軸について—地域継承空間システム<山と海の空間軸>と場所性・都市空間構成に関する研究」日本建築学会，2009 年 8 月 28 日，東北学院大学

- ⑧ 宇杉和夫/千葉智彦,「東京都心における元武家屋敷地の区画細分化の形成過程についてー港区三田四国町周辺をケーススタディとして」, 日本大学理工学部学術講演会論文集, 2008年11月29日, 日本大学

[図書] (計9件)

- ① 宇杉和夫著, 地域主権のデザインとコミュニティアーキテクト, 古今書院, 2012年, p399
- ② 西村幸夫・伊藤毅・中井祐・中島直人他9名, 風景の思想, 学芸出版社, 224p.2012
- ③ 石丸紀興監修, 李明著, ヒロシマの復興を支えた建築家たち, 宮帯出版社, 2012年, 304p.
- ④ 高見沢実・中島直人・野原卓・初田香成他64名, 60プロジェクトによむ日本の都市づくり, 朝倉書店, 2011年, 240p.
- ⑤ 宇杉和夫編著他4名, まち路地再生のデザイン 路地に学ぶ生活空間の再生術, 彰国社, 2010年, 258p.
- ⑥ 宇杉和夫著, 場所の空間学 環境・景観・建築, 古今書院, 2008年, 277p.

[その他] 報告書

- ① 日本建築学会都市計画委員会, 地域文脈形成・形成史小委員会編, 中島直人共著, 東日本大震災と都市・集落の地域文脈ーその解説と継承に向けた提言ー, 日本建築学会, pp. 27-37, 2012
- ② 日本建築学会都市計画委員会, 地域文脈形成・形成史小委員会編, 宇杉和夫共著, 東日本大震災と都市・集落の地域文脈ーその解説と継承に向けた提言ー, 日本建築学会, pp. 53-54, 2012
- ③ 日本建築学会都市計画委員会, 地域文脈形成・形成史小委員会編, 木田道宏共著, 東日本大震災と都市・集落の地域文脈ーその解説と継承に向けた提言ー, 日本建築学会, pp. 69-74, 2012
- ④ 中島直人, “前現代の都市・建築遺産への都市計画史からのアプローチ 藤沢駅前口「391街区」(藤沢駅前南部第一防災建築街区)を事例として, 中島直人, 「前現代」の都市・建築遺産としての可能性を問う(2012年度日本建築学会大会PD資料), 査読無, 57-60, 2012
- ⑤ 特別研究シンポジウム地域主権・地域再生とコミュニティアーキテクト資料集, 日本建築学会, 2011年
- ⑥ 日本のサステナブルエリアデザインとコミュニティアーキテクト～地域主権の計画枠組: 制度と担い手～, 日本建築学会大会特別研究部門研究協議会資料, 2010年
- ⑦ 応募提案報告書 私の考える日本のサステナブルエリアデザインとコミュニティアーキテクト 地域固有の空間構成,

まちづくりの仕組み・手法とその担い手像, 日本建築学会, 2009年

- ⑧ サステナブルエリアデザインとコミュニティアーキテクトの形成・育成に関する研究 提起報告書 日本のサステナブルエリアデザインとコミュニティアーキテクト, 日本建築学会, 2009年
- ⑨ 建設通信新聞, 地域固有の空間を形成実現へ新たな職能提案 建築学会が特別研究, 2009年5月14日
- ⑩ 建設通信新聞, 地域継承の空間システム復権, 文脈, 歴史理解したCAに発注する仕組みを, 建築学会SADとCA特別研究委員会 宇杉和夫委員長に聞く, 2009年5月14日
- ⑪ 特別研究・41 近代の空間システム・日本の空間システム 都市と建築の21世紀: 省察と展望, 日本建築学会近代の空間システム・日本の空間システム特別研究委員会(宇杉和夫副委員長・木多道宏幹事・安田孝幹事・加藤仁美委員・中島直人WG幹事), 2008年

6. 研究組織

(1) 研究代表者

宇杉 和夫 (USUGI KAZUO)
日本大学・理工学部・准教授
研究者番号 80096776

(2) 研究分担者

中島 直人 (NAKAJIMA MAOTO)
慶応大学・環境情報学部・講師
研究者番号 30345079
瀬口 哲夫 (SEGUCHI TETSUO)
名古屋市立大学・芸術工学部・教授
研究者番号 00093047

(3) 連携研究者

木多 道宏 (KITA MICHIHIRO)
大阪大学・工学系研究科研究院・准教授
研究者番号 90252593
安田 孝 (YASUDA TAKASHI)
摂南大学・工学部・教授
研究者番号 60029220
石丸 紀興 (ISHIMARU NORIOKI)
広島国際大学・工学部・教授
研究者番号 20034366
加藤 仁美 (KATO HITOMI)
東海大学・工学部・教授
研究者番号 00152736

(4) 協力研究者

周典(西安交通大学・教授)
李志民(西安建築科技大学・教授)
猿渡俊(株. 谷澤総合鑑定所)
千島孝弘(株. ACA設計)
丸史明(株. 新昭和)